



第 77 号

2015年6月25日

◆ 発行 ◆

名古屋労災職業病研究会

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4 階

TEL&FAX : 052-837-7420

e-mail : roushokuken@be.to

<http://nagoya-rosai.com/>



名古屋労災職業病研究会第 12 回総会記念講演での様子  
5/31 日本特殊陶業市民会館にて

※記事は次号予定

#### 77 号目次

- ☆ 富山、岐阜羽島、新潟でアスベスト被害相談会・ホットラインを行いました P2~P3
- ★ 中川運河沿いの街中でのアスベスト含有建材マッピング調査 P3~P5
- ☆ 学校アスベスト訴訟での証拠の大切さ P5~P6
- ★ 「泉南石綿の碑」建立除幕式 P6~P8
- ☆ 皆さんのおかげで県議会へ復帰できました P8~P9
- ★ プライマリケア実習を振り返って P9
- ☆ 森先生の記事が掲載されました P10
- ★ 事務局からのお知らせ P11~P12

## ☆富山、岐阜羽島、新潟で

### アスベスト被害相談会・ホットラインを行いました



アスベスト被害相談会・ホットラインを富山市、岐阜羽島市、新潟市で行いましたので、それぞれの報告をいたします。

#### 《富山市》

4月4日（土）富山市の富山県中小企業研修センターで中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会北陸支部による「アスベスト被害相談会・ホットラインと患者と家族の集い」が行われ、成田も相談員として参加しました。

この日は北陸支部の野村さん、片山さん、患者と家族の会事務局の澤田さん、成田で相談対応をしました。北陸支部によりますと、今回の取り組みによる相談件数は10件ということで、4月4日当日は7件の相談がありました。私自身は長年工場で働き医師から「気管支拡張症」と言われているじん肺の疑いのある男性のお話をうかがったり、富山港にある造船所、岩瀬ドックで塗装の仕事をした経験のある夫を中皮腫で昨年亡くされた女性のお話を聞いたりしました。また、現在、胸膜中皮腫で療養している男性のお子さんのお話もおうかがいしました。4日の相談7件の内、中皮腫についての相談が3件、肺がんについての相談が1件、じん肺疑いや胸膜プラーク、胸膜炎についての相談が3件ありました。

この日は午後から患者と家族の集いも行われ、北陸支部の会員さんで5か月前に中皮腫で旦那さんを亡くされた方や10年前に奥様を中皮腫で亡くされた男性がそれぞれの体験等をお話されました。

北陸支部の野村さんは富山県内の医療機関を回り、患者と家族の会について医療関係者に説明する活動をされているとのことで、成田も愛知でそのような活動をしたいと思いました。

#### 《岐阜羽島市》

4月19日（日）には岐阜県羽島市の羽島市文化センターでアスベストユニオン（全造船機械労働組合アスベスト関連産業分会）、アスベスト訴訟関西弁護団、名古屋労災職業病研究会による「アスベスト被害相談会・ホットライン」が行われ、成田も参加してきました。この取り組みは、ニチアス羽島工場元従業員で石綿肺を患っている山田益美さんと角田正さんの「一人でも多くの被害者の力になりたい」という思いに、山田さん、角田さんが加入しているアスベストユニオン等が呼応し行われました。山田さんと角田さんは、自分達の石綿健康被害に対する損害賠償をニチアスに求める裁判を4年間闘ってきました。4月15日に岐阜地裁の和解勧告を受けて和解協議が行われましたが、ニチアス側が拒否し、和解は決裂しました。



この日は朝から5件の相談がありました。相談の内容は、「ニチアス羽島工場の向かいにある羽島市民病院で長年看護師をしていたが、肺にプラークがある」「国のリスク調査の健診は

今年までだったが、来年以降は継続されるのか」と言うものや、「ニチアスに勤めていたが最近息苦しくなってきた」「ニチアスの下請けで働いていたが不安」「ニチアスに弟が勤めていたが中皮腫で亡くなった」「昔、石綿取扱い工程のある工場働いた」等でした。現在、2名の方のじん肺管理区分申請の準備をしています。

《新潟市》

5月10日（日）には昨年の夏に引き続き2度目になる新潟市での「アスベスト被害相談会・ホットライン」を新潟市生涯学習センターで行いました。中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会主催で、名古屋の成田と神奈川の鈴木江朗さんが相談員を勤めました。



相談件数は4件で、胸膜プラークを市の健診で指摘されたという男性の相談や、CTではじん肺所見が見えるのに、胸部レントゲン写真ではじん肺がはっきり見えないためじん肺管理区分申請で「じん肺無しの管理1」とされてしまったという男性の相談と中皮腫に関する相談が2件ありました。一件は胸膜と腹膜中皮腫で療養中の建具職人の男性の患者さんからの相談で、「中皮腫」と診断されたがどこで自分が石綿にばく露したのか分からないというもので、もう一件は平成14年に自動車部品工場に勤めていた夫が胸膜中皮腫で亡くなったが、労災保険の申請を行わなかったというものでした。

先日、長岡市の病院に療養中の建具職人の男性の聞き取りに成田が行き、職歴の聞き取りを男性から行い、労災を申請しました。男性は団地等の建設現場に建具取り付けの為に立ち入っており、その時に大工さんが男性のそばでアスベスト含有建材を切っていたり、保温工がアスベスト含有断熱材を配管に巻くなどをしていた為石綿にばく露したことが聞き取りで分かりました。



平成14年に夫を中皮腫で亡くされた女性については、女性を柏崎市に訪ね、亡くなった夫の同僚2名の聞き取りを行いました。亡くなった夫は鋳造部門で働いており、鉄を溶かす電気炉が工場内にあり断熱の為の石綿製品が職場にあったことが分かりました。現在、労災保険の時効救済制度申請の準備を行っています。

（成田 博厚）

## ★中川運河沿いの街中でのアスベスト含有建材マッピング調査

3月18日（水）に中川生涯学習センターと中川運河沿いの街路で「アスベスト含有建材マッピング調査」を行いました。この調査は代表的なアスベスト建材である波板スレートのある建物を街中で見分け、印刷した中川区のGoogleマップに記入し、波板スレートがいかに多いかを実感し、残存するアスベスト建材の量を把握するために行われました。波板スレートは2014年までほとんど全てがアスベスト含有でした。この調査には東京労働安全衛生センター（以下、東京安全センター）、アスベストセンター、愛知健康センター、名古屋労

災職業病研究会や中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会の会員、大学教員などが参加しました。調査には NHK 名古屋放送局の取材班が密着し、3月23日のNHK名古屋放送局のニュース番組「ほっとイブニング」の特集コーナーで「災害時の新たな危険・市街地のアスベスト」として放送されました。マッピング調査は東日本大震災被災地の石巻市で実際に東京安全センターとアスベストセンターが実施した方法で、この調査により被災地でのアスベスト含有建材の取り扱い状況の一端を把握することが出来ました。



石綿建材の説明をする  
外山尚紀さん

この日は朝、中川生涯学習センターに集合し、最初に調査のリーダー、東京安全センターの外山尚紀さんから調査方法についてレクチャーを受けました。外山さんから説明を受ける為に集まった10人程のメンバーは戸外に出たのですが、生涯学習センターのそばに波板スレートを使用した工場があり、そんなに歩き回ることなく、すぐに調査方法の説明を聞くことができました。この工場の壁に使用されていた波板スレートには割れている箇所があり、建材のアスベスト繊維が肉眼で見えました。調査のやり方のレクチャーを外山さんから受けた後は4チームに分かれそれぞれの担当地区へ行きマッピングを開始しました。メンバーは波板スレートを使用した工場や倉庫などを探すため中川運河沿いに広がる街の路地裏も含めてくまなく



波板スレートを使用した倉庫

歩きました。私達が歩いた中川運河沿いの街は外山さんいわく「石巻より波板スレートの建物が多い」ということで、街を歩いている間中、難なく多くの波板スレートを使用した建物を見つけることが出来ました。波板スレートの中には長年雨風、太陽光線にさらされ劣化しボロボロになっているものが多くあり、また、屋根や壁のスレートが割れて地面に落下し、建物のまわりに破片が落ちていたりするものも多くありました。私達はそんな建物を発見すると写真を撮り、地図に記入していきました。波板スレートは安価な建材として、工場や倉庫などに多用され、現在でも多く街中に残っています。

午前中1時間半、昼食後2時間程マッピング調査を行い、この日、私達は176棟の波板スレートを使用した建物を見つけることが出来ました。参加メンバーが実際に目で確認した区画は限定された面積だけでしたが、外山さんはインターネットのGoogle マップの航空写真を見ることが出来る機能を使い、波板スレートの屋根で波板スレートが使用された建物を上空から特定し、さらにストリートビューの機能を使い、道路からの写真に写っている各建物の高さなどから使用されている波板スレートの使用量を推定する方法を試行し、中川区の4.2平方キロメートル、317棟の波板スレートを使用した建物の、波板スレート総量を1,068トンであると推定しました。



波板スレートの破片を発見

マッピング調査により残されているアスベスト含有建材の量を把握、推定することは、南海トラフ大地震発生時のアスベスト廃棄物処分対策や建物の改修、解体対策、被災者のアスベストばく露防止対策などを考えていくうえでとても有益で、マッピング調査の結果をもとに行政など

に働きかけながら対策を作っていく事が重要だと外山さんら東京安全センター、アスベストセンターは考えています。

(成田 博厚)

## ☆学校アスベスト訴訟での証拠の大切さ



牛島弁護士

### 1 学校でのアスベストの存在

1987年—88年の全国調査で、公立の学校・幼稚園の約1500校で使用されていたことが明らかになり、私学でも450校以上で使用されていた。国は、吹付除去工事費の一部を補助したが、アスベストは学校に多く残った。

平成17年11月段階で、石綿(1重量%以上の青・茶・白石綿)が使われていたのは調査対象の約5%である6271機関(4,894,027㎡)、室数では、日常利用室50,265室、その他の諸室13,992室。その1割を超える771機関(291,797㎡、487校)で飛散のおそれがあるとされた。

平成25年10月1日現在、アスベストが4290機関(3,535,444㎡)にあり、飛散のおそれがあるものが15機関(14,267㎡)とされている。

### 2 学校は建築現場の様相に

学校は、昭和30年代からの生徒の急増期に、増改築を狭い敷地内で繰り返し、それでもどうにもならなくなると、新設校を増設していた。その際、さまざまな建材に含まれていたアスベストが加工で飛んだので、建築現場の様相になっていた時期が長い。

### 3 石綿救済法・労災での「教員」の認定状況

石綿救済法上の認定は、平成23年度までの累計で「教員」は139名となっている。(なお、学内の用務員、事務員、給食調理関係者などは、「教員」に含まない。これらを含めるともっと多い。)

これに対して、労災認定は教師については極めて少なく、石綿曝露作業による労災認定等事業場一覧表によると、平成23年度までで5件程である。

公務災害(国家公務員・地方公務員)では、アスベスト起因か否かの統計がない。

### 4 この労災不支給決定取消裁判・問題点

昭和36年から約35年勤務した国語教師が平成13年に中皮腫にて死亡された件のこの裁判。学内の体育館、地下駐車場などに白石綿の吹付があった。アスベスト含有建材も多数使われており、勤務期間中、校舎の増改築が頻繁に行われた。

#### ① 教師の仕事の多様性



裁判後、傍聴者の皆さんと共に  
5月28日 名古屋地方裁判所にて

教師といえは教壇に立つ姿が思い浮かぶが、実際は、教材作り、印刷、掃除、スポーツ活動、部活、生活指導、各種行事、宿泊を伴う活動など多様な業務に従事する。特に、本件学校は、視聴覚教育にいち早く取り組み、テレビスタジオを設け、生徒にテレビ番組などの視聴覚教材を作成させるなど活用した。

② 見落とされた2層吹き（下吹きが青石綿、上吹きが白石綿）と肺内石綿の種類

テレビスタジオは明るさが大切であり、青石綿の上に、白石綿が吹き付けられる2層吹きが採用されていた。ところが、労災審査段階では2層吹きを見落とされ、被害者の肺内から青石綿が検出されていないなどとして認定されなかった。

裁判段階に、ようやく除去工事(平成18年)の業者から2層吹きの写真が提出された。

2層吹きであれば、下吹きの青石綿が上吹きの白石綿に封じられていたことになり、青石綿が被害者の肺内から出ない方が整合する。

白石綿が、肺内で消失しやすいことはヘルシンキクライテリアでも認めている。2層吹きの上吹き層は白石綿であるので、この認識も重要である。

学校アスベストの情報は、救済にも利用できるように整理保管されるべきである。

(オリーブの樹法律事務所 弁護士 牛島 聡美)

## ★「泉南石綿の碑」 建立除幕式



4月19日、「泉南石綿の碑」の建立除幕式が大阪府泉南市信達牧野で行われ、原告や遺族、支援者、韓国の石綿追放ネットワーク、弁護士など、150名ほどが参列した。



大阪府南部の泉南地域はかつて石綿紡績工場が点在し、1960～80年代にかけ、パッキン・石綿布などの石綿紡織品が大量に生産された国内最大級の産地だった。その陰で工場の労働者の健康被害は進行。国は被害の存在を把握しており、排気装置の設置を義務づけるべきだったのに71年まで行使しなかった。防じんマスク着用の徹底も不十分だった。工場の多くは中小零細企業・個人事業主が多く労働環境は劣悪。工場内はもちろん工場の外まで石綿で真っ白だったという。

工場はすでに廃業しており、補償を求めるのが難しかった石綿被害者たちは2006年5月、「国は石綿の危険性を知りながら、経済的有用性を最優先し、企業への規制や指導を長期間にわたり怠った」として国に賠償を求め提訴した。

およそ9年の闘いの歳月を経て、昨年10月9日、最高裁は国の責任を認め、原告勝訴の判決を言い渡した。

しかし、1974年以降32年間、工場で働いた夫を亡くした原告、子供の時に共働きの両親と共に工場にいて、被害をうけた原告（両親死去・両親についての訴えは認められた）、工場近隣住民ら原告7人は棄却され、賠償は認められなかった。同じ被害者であるのに、区

別をした理不尽な判決に怒りがこみあげる。

今年 1 月、塩崎厚生労働相が泉南を訪問、82 人の原告に対し謝罪し終結した。提訴後に死去した原告は 14 人にもなる。

石碑は 2 基ある。碑の一つには「泉南石綿の碑」と刻まれ、もう一つの碑には市民団体「泉南地域の石綿被害と市民の会」代表・<sup>ゆ おかかずよし</sup> 柚岡一禎さんの短歌が刻まれている。石碑の建つ土地は柚岡さんが自宅敷地の一部を提供。建立費用は原告が国から支払われた賠償金の一部を持ち寄ったという。

新緑を吸い込みいや増す悲しみぞ息ほしき人のあるを知るゆえ

提訴より 9 年、原告たちを支え、共に闘ってきた柚岡さん。「息がほしい」と苦しむ石綿被害者をおもんばかりの歌だ。碑のとなりには裁判の経過など石綿被害との闘いの歴史と、詩「帰らぬ母に」が記され、遠くへ逝ってしまった帰らぬ父母、夫、友への呼びかけの言葉が胸を打つ。

帰らぬ母に

わたしは問いかける  
そこに花は咲いていますか  
暗く小さな工場の中  
白い塵（ちり）が舞っていましたね  
粉雪のように

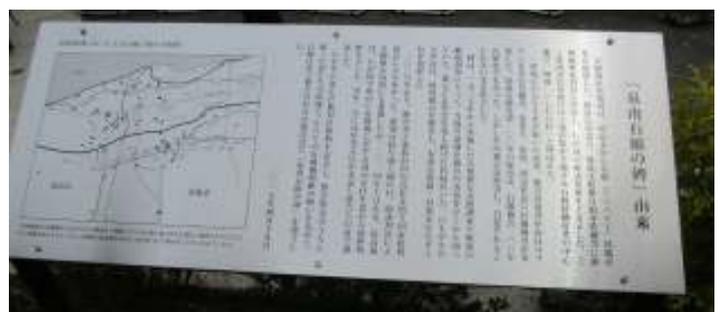
帰らぬ父と

帰らぬ夫に  
わたしは問いかける  
そこに陽はさしていますか  
油でよごれた作業場で  
働きづめの日々でしたね  
子供たちのために

帰らぬ友に

わたしは問いかける  
そこに風は吹いていますか  
せわしく行き交うシャトルの音  
がんばりやの織り子さんでしたね  
なにも知らされずに

遺されたわたしは誓う  
もう涙は流さないと  
いしわたの町に生まれ  
いしわたの町で育ち  
わたしは今顔をあげて



五月の空へ  
あるきはじめる

詩の後には次の言葉が記されていた。

「石綿紡績百年、大勢の人が理由も分からず、知られることもないまま亡くなりました。この詩を犠牲になった人々に捧げるとともに、アスベスト被害のない社会の実現に向けて力を合わせることを誓います」

泉南アスベスト裁判原告一同

近くの公民館で開かれた懇親会の席で、一人の被害者が「石綿は憎いけれど、石綿の仕事で子供を育て、学校に通わせ、成人させることが出来た」と語った。朝早くから夜遅くまで、体中が石綿で真っ白になって働き、暮らしを立ててきた被害者の自負の言葉が切ない。

賠償を認められなかった夫（死去）、その妻の癒されない悲しみと怒り。それでも「一生懸命にみんなで力を合わせ、国に責任を認めさせた」と、清々しく語った原告、その原告たちを穏やかに見守る支援者。それぞれの9年の歳月を思いながら、私は泉南を後にした。

国と企業の怠慢によって多くのアスベスト被害者が人生と命を奪われた。「息を返せ、健康を返せ、明日をください」という被害者の悲痛な叫びを常に、胸に刻み、私は被害者遺族として石綿被害者の掘り起し、被害者の公平公正かつ早期の救済、被害根絶を訴え、活動を続けたいと思っている。

皆様のご理解とご支援を、心からお願い致します。

(宇田川 かほる)

## ☆皆さんののおかげで県議会へ復帰できました



2011年の県会議員選挙で落選して以来、4年ぶりに愛知県議会議員で当選を果たすことができました。落選中も、労職研顧問としてともに闘っていただいた皆様のご支援は、本当にありがたいものでした。

東日本大震災・津波ですさまじい被害にあった南三陸町への、労職研の仲間による「カレーの炊き出しツアー」。落選直後の私にとって、この被災地へのボランティアに誘っていただいたことは、この上ない励ましでした。落胆して呆然としている場合ではない。議員という立場ではなくとも、人々の命とくらしを守る課題は目の前に山積している。できることから始めよう。それが議員としての再起につながる道だと。そう言って励まして下さったのは、当時の労職研会長の杉浦裕先生でした。

杉浦先生と私は、旭丘高校の1年違いで、民主党を立ち上げて名古屋へ帰った1996年当時から、熱心にご支援いただいていた間柄。この2011年の正月の愛知県知事選挙では、私たちが担ぎ出した御園慎一郎候補の後援会長として、大変なご苦勞をおかけした杉浦先生でもありました。御園さんと杉浦先生は東大サッカー部の盟友だったとはいうものの、病身の先生にとって慣れない選挙戦の負担、そして惨敗の結果は、先生の命を縮める結果になった

のではないかと、悔やまれてなりません。

その先生が亡くなられて3年、その後をお願いした伊藤光保先生までも他界されてしまいました。「平成の赤ひげ」とも呼ぶべきこの愛知の人権派医師二人が相次いで亡くなられたことは、埋めようのない損失です。しかし、世の中は安倍政権の下、労働者を使い捨て、人々の命や安全よりも企業の利益を優先する「アベノミクス」という妖怪が闊歩する状況となっています。労職研の役割はますます重大なものとならざるをえません。

そんな今、県議会という働く場を与えていただいた私も、県民の命とくらしを守るために、いっそう頑張る決意です。会員の皆さん、どうかよろしくお願いいたします。

(愛知県議会議員 名古屋労職研顧問 高木 ひろし)

## ★プライマリケア実習を振り返って



今回、プライマリケア実習を八事の駅前にある杉浦医院でやらせていただきました。プライマリケア実習は、大学病院のすべての専門科を1-2週間ずつ回るポリクリIという実習の一部です。大学病院が担う高度で専門的な医療の提供とは異なり、特別な治療というより、患者さんの生活環境や家庭環境、使える資源などに目が行き届いた全人的な医療を学ぶ、というのが今回の実習の目標でした。



(写真右) 安田 和史さん

(写真左) 森 先生

実習では外来診療と訪問診療を見学させていただきました。そのほか、森先生が参画されている名古屋労災職業病研究会などにも参加させていただきました。

外来診療では午前中はほとんどが年配の方で、夕方は若い方もちらほら来診されていました。患者さんの半分は慢性疾患の定期受診や健康診断の結果を目的に来院されていました。森先生は測定した数値と疾患の可能性が低い旨を伝えながら説明されるのですが、多くの患者さんはその説明の間はどうも浮かない顔をしているのです。しかし、最終的に「マル！いいよ、〇〇さん！」と言われてなんだか安心して帰って行かれるのが印象的でした。

訪問診療は昭和区、天白区を中心に一日10軒前後を回りました。施設では、予定していた患者さん以外でも体調を崩している患者さんは当日診療するなど柔軟に対応されていました。また、病状が進行して要介護度の変更が必要と判断された患者さんには当日中に介護認定の主治医意見書を書いたり、必要であれば訪問看護師を手配したりと社会的、人的資源を柔軟に使いこなしていることも印象に残りました。

その他、名古屋労災職業病研究会では労災に今実際に携わっている相談員の方から、医師が求められていることなどをうかがうことができ、これも受動的に医学部に所属しているだけでは得られない貴重な経験でした。

振り返って、プライマリケア実習で学ぶ目標はすべて見る事ができたように思います。そして、町のお医者さんという働き方に大きな魅力を感じる事ができました。三日間という短い期間でしたが充実した実習と反省会をありがとうございました。

(名古屋大学医学部医学科5年 安田 和史)

## ☆森先生の記事が掲載されました

4月8日朝日新聞に、森亮太代表の記事が掲載されました。



# 路上生活者

## 支えて30年

名古屋駅近くで、日雇い労働者から医療相談に乗るなどの支援をしてきた旧笹島診療所が設立から今年で30年になる。3年前にはNPO法人に組織替え。参加するボランティアらが路上生活者の自立を手伝ったり、貧困家庭の子どもに勉強を教えたりするなど活動の範囲を広げている。

### 旧笹島診療所母体のNPO



路上生活者を対象にした炊き出しで医療相談に乗るSSC理事長で医師の森亮太さん（右）＝1月、名古屋市中区

## 貧困世帯の中学生指導も

NPO法人、ささしまサポートセンター(SSC、名古屋市東区)は、事務局長は木造2階建ての住宅にあり、1階は事務室で、2階は、路上生活者が自立のため、一時的に宿泊できるようになっている。

SSCの前身、笹島診療所は1985年の開設。日雇い労働者を支援するために開いた施設で、医療に関する相談を受け付けてきた。不況に伴い日雇い労働者は減少。仕事が見つからず、簡易宿泊所にも入れない路上生活者が増加していた。「相談だけではなく、寝る場所もない人を助けるとともに、自立につながるような支援が求められていた」とSSC事務局長の定森光さん(28)。そこで2012年にNPO法人に組織替えをした。

現在、事務局員3人と学生や会社員ら約50人のボランティアがいる。12年から新たに始めたのはアパート訪問。生活保護を受け、自立を目指しアパートで暮らしている人を対象にしている。孤立しないよう月に20、30人の部屋を訪れる。「元氣ですか」と声をかけ、相談に乗っている。

毎月1回は対象者を招いた交流会も開いている。

市の委託を受け、貧困世帯の中学生に無料で勉強を教える活動もしている。受験を控えた中学3年生を中心に定員は10人。週2回の夕方、大学生らのボランティアが勉強を教えている。

2年前からボランティアとして参加している会社員山城敬一さん(30)は「月2回の週末ぐらいなら、と軽い気持ちで参加した」。アパート訪問でこれまで50人以上の相談に乗ってきた。「部屋にこもっていた方が外出してくれるようになった。自分も役立っているのかなという達成感がある」

一方で、旧笹島診療所時代から続けている医療相談も活動の柱だ。毎週木曜、名古屋高速の高架下、名古屋市中区の若宮大通で開く炊き出し(食事の支援)の際には、体に不調がないか、集まる人に呼びかけて回っている。SSC理事長で医師の森亮太さん(44)は「病院に行けず、体が弱っていく路上生活者がいる以上、僕らは彼らの健康を支える最後のとりで。あらゆる活動を通じて支援していきたい」と話している。(女塚泰之)

## ★事務局からのお知らせ



### ★「クレーンオペレーター蒲さんの労災裁判」傍聴のお願い

日時：6月29日（月）16:30～

場所：名古屋地方裁判所 201 号室

クレーン操作が原因で、右足に発症した筋筋膜性疼痛症候群の労災不支給決定の取消しを国に求めている裁判です。傍聴をよろしくお願い致します。

### ★「宇田川さんの学校アスベスト裁判」傍聴のお願い

日時：7月8日（水）16:00～

場所：名古屋地方裁判所 201 号室                      傍聴をよろしくお願い致します。

### ★「ニチアス石綿被害損害賠償裁判判決」傍聴のお願い

日時：9月14日（月）14:00～

場所：岐阜地方裁判所 301 号室                      傍聴をよろしくお願い致します。



### ★お詫びと訂正

先日お送りしました「名古屋労災職業病研究会第12回総会議案書」18ページに誤りがありました。

（誤）顧問 高木 ひろし（前愛知県議会議員）

（正）顧問 高木 ひろし（愛知県議会議員）

高木ひろしさんを始め、関係者の皆様にご迷惑をおかけ致しましたこと、深くお詫びし、訂正致します。

### ★東海在日外国人支援ネットワークから「勉強会」のお知らせ

日時：7月18日（土）15:00～

場所：全港湾（全日本港湾労働組合）名古屋支部会議室

名古屋市港区入船 1-8-26      ☎：052-652-1421

内容：「技能実習制度」 語り手・・・愛知県労働組合総連合議長 樽松佐一さん

参加費：300円

問い合わせ：東海在日外国人支援ネットワーク（名古屋労災職業病研究会内）



## 労職研の活動



4月		5月	
4日	富山アスベスト被害ホットライン・相談会	10日	新潟アスベスト被害相談会・ホットライン
9日	名古屋労職研事務局会議	14日	名古屋労職研事務局会議
15日	岐阜羽島二チアスアスベスト裁判記者会見	17日	第15回外国人労災ホットライン
19日	岐阜羽島アスベスト健康被害相談会・ホットライン	18日	長野アスベストセンター設立会議
21日	東海在日外国人支援ネットワーク運営委員会	21日	東海在日外国人支援ネットワーク運営委員会
23日	名古屋労職研事務局会議	22日	アスベストユニオン会議
24日	クレーンオペレーター蒲さんの労災裁判傍聴	25日	名古屋労職研事務局会議
		26日	メンタルヘルス・ハラスメント対策局例会
		28日	学校アスベスト裁判傍聴
		29日	厚生労働省・環境省交渉
		30日	新宿西口宣伝行動
		30日	石綿対策全国連絡会議第27回総会&「クボタ・ショックから10年のアスベスト問題を考える集会」
		31日	第12回名古屋労災職業病研究会総会

### 【労職研 会費・カンパ振込先】

郵便振替 口座番号 00860-5-96923  
 加入者 名古屋労災職業病研究会

### 発行 名古屋労災職業病研究会

発行者：森 亮太  
 名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階  
 Tel./Fax.052-837-7420  
 e-mail: roushokuken@oregano.ocn.ne.jp  
<http://nagoya-rosai.com/>